

下関市立美術館 特別展「山水画と風景画のあいだ」

会 期：2022年8月20日(土)～10月16日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

連続講演会

「風景画の東西」

講 師

宮下 規久朗氏

(神戸大学大学院人文学研究科教授・美術史家)

このたび下関市立美術館で開催する「山水画と風景画のあいだ—真景図の近代」展に合わせて、宮下規久朗先生をお招きして連続講演を開催いたします。

先生はイタリア美術史の専門家ですが、古今東西の美術に通じ、専門書から一般書まで数多くの著書を出版しております。

今回は、西洋と東洋の風景画について、該博な知識を動員して二回にわたる講演を実施します。

(1) 西洋の風景画の成立と展開

8月27日(土)

午後5時～6時30分

下関市立美術館 光庭

定員60名

(2) 東洋と現代の自然表現

8月28日(日)

午後5時～6時30分

下関市立美術館 光庭

定員60名



宮下 規久朗 (みやした きくろう 神戸大学大学院人文学研究科教授・美術史家)

1963年、名古屋市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。兵庫県立近代美術館学芸員、東京都現代美術館学芸員などを経て1995年より神戸大学文学部助教授、2013年より現職。『カラヴァッジョ—聖性とヴィジョン』(名古屋大学出版会)でサントリー学芸賞など受賞。他の著書に、『バロック美術の成立』(山川出版社)、『食べる西洋美術史』、『ウォーホルの芸術』、『美術の力』(以上、光文社新書)、『刺青とヌードの美術史』(NHKブックス)、『モチーフで読む美術史』『しぐさで読む美術史』(以上、ちくま文庫)、『ヴェネツィア』、『闇の美術史』、『聖と俗 分断と架橋の美術史』(以上、岩波書店)、『そのとき、西洋では』(小学館)など多数。最近の著書に、『聖母の美術全史—信仰を育んだイメージ』(ちくま新書)、『美術は宗教を超えるか』(佐藤優と共著、PHP研究所)、『名画の生まれるとき』(光文社新書)がある。

申込方法

- 要事前申込。美術館に来館またはお電話で「①参加日、②氏名、③連絡先」をお伝えください。
TEL：083-245-4131
- 参加費：無料
ただし、当日の観覧受付が必要です(午後4時30分まで)。

下関市立美術館

〒752-0986 下関市長府黒門東町 1-1
<https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art>